

平成29年度決算認定

平成29年度各会計決算認定は、一般会計ほか9件すべてを原案どおり認定しました。
おもな質疑は次のとおりです。

一般会計

質疑

国見ブランド育成・6次化商品開発事業の内容は

問 (松浦和子議員)
地方創生推進費の委託料4800万円のうち、国見ブランド育成・6次化商品開発事業の内容を問う。

まちづくり交流課長 道の駅において、売れる6次化商品づくりのため、また、国見らしきがあふれる道の駅を統一したイメージで作るために、専門業者からアドバイスなどを受ける事業である。くにみ米やバ

ウムクーヘンなどのパッケージ、包装紙のデザインや売り場のディスプレイなどに生かされている。

木育広場での配置人数はどのように決めたのか

問 (渡辺勝弘議員)
こども木育広場

「つながるくむ」の子育て施設運営委託料1800万円について、委託先はどこなのか。また、配置人数は、委託先から指定された人数なのか、決め方を問う。

幼児教育課長 仙台市の「ママプラス」に委託している。本町では、ママフェスタなどで携わった実績や、企画力などにも優れていることから評価し委託してい

る。木育広場では、保育士・保健師・子育て支援員を配置しており、乳幼児のいる親子の交流や育児相談の場の提供を行っている。また、一時預かりなど地域子育て支援センターとしての機能や、木育広場の管理運営など様々な事業を行っており、これらの事業に必要な人数を積算し、委託している。

デマンドタクシーの利便性を高める対策は

問 (阿部泰蔵議員)
高齢者の運転事故

が社会問題となっているが、デマンド型乗合タクシー事業は、年末年始や土日祝日が休みで不便である。運転免許証返納を促すためにも、デマンドタクシーの利便性を高める考えはあるのか。

企画情報課長 これまで一般的なタクシーとの利益相反も考慮し現状で運営しているが、今後はデマンド型タクシーのほか、

福祉型タクシーなどが良いのか、公共交通の在り方を総合的に考えながら最適な方法を検討したい。

寄贈された資料等の保存・活用は

問 (八島博正議員)
あつかし歴史館の

展示物について、故・菊池利雄氏から寄贈されたものが多くある。備品購入費で収納棚を購入しているが、現状はどうなっているか。また、寄贈していないものが自宅にあるそうだが、何らかの形で保存し、資料として活用すべきと考えますが、所見を問う。

まちづくり交流課長 購入した収納書籍等の整理作業をしている。

副町長

故・菊池利雄氏は、文化財の保護審議委員などを歴任され、町文化財の保護と活用に尽力された。残された資料等については、以前、本人から寄贈したいという話

があった。町の宝であり、保存・継承したいと考えている。

健全化判断比率 (%)

区分	29年度 (28年度)	早期健全化基準
実質赤字比率 ^{*1}	赤字なし (//)	15.00
連結実質赤字比率 ^{*2}	赤字なし (//)	20.00
実質公債費比率 ^{*3}	6.8 (6.6)	25.00
将来負担比率 ^{*4}	67.8 (70.7)	350.00

※1 一般会計と公営事業を除く特別会計の赤字の割合

※2 公営事業を含む全会計の赤字額の合計の割合

※3 収入に対する負債返済の割合

※4 将来支払う見込みの負債割合

決算審査報告

代表監査委員 佐藤 徳正／監査委員 松浦 常雄

各会計の決算書が関係法令に準拠しているか、財政運営が適正かを主眼として審査をしました。

その結果、総括的には、各会計とも黒字を維持しており、計画的な財政執行により収支の均衡と健全な財政運営が行われていました。

また、健全化判断比率、資金不足比率審査は、その算定と基礎となる書類が適正に作成されているかを主眼として実施しました。

その結果、いずれも適正に行われていました。

健全化判断比率は、実質公債費比率、将来負担比率とも早期健全化基準を下回っているため、良好な状態です。

公営企業の経営状況は、水道事業会計、下水道事業特別会計、土地開発事業特別会計のいずれも資金不足はありませんでした。(抜粋)



適正な財政運営であったことを報告する佐藤徳正代表監査委員

問

(八島博正議員)

道の駅の決算につ

道の駅に対する町の負担を抑えるための考えは

いて報告があったが、赤字が出ている。町のふるさと振興基金から国見まちづくり株式会社追加出資している。今年度も町が道の駅に費用をさらに負担しなければ運営できなくなると懸

念している。町の負担をなるべく少なくするべきと思うが、考えを伺う。

町長

道の駅はオープンから1年4カ月が経過し、255万人が来場した。売上が約13億円あり、宮城県からの来場者など町外の方が多い。町への直接的な経済効果としては約4億円であり、交流連携、活性化の拠点として少しずつ効果が上がっていると考え

る。経営面については、昨年度は初期投資費用などがかかっているが、今年度の上半期の仮決算では収支がほぼ同額になっている。下半期は来場者の減少が予想されるが、キャッシュフロー上では収支をほぼ同額にするよう対応したい。道の駅は町の維持発展につながるものと考えており、今後も町の活性化と経営の安定化の両面を見ながら対応していきたい。

国民健康保険特別会計

生活困窮者への支援は

問

(浅野富男議員)

国民健康保険税の生活困窮者への減免措置など支援は考えているのか。

課長

国民健康保険税の減免よりも、納めていただくための

支援として、生活相談などの対応をしたい。それでも納入が難しい場合は減免などの対応となるが、まず納めていただけるようお願いしたい。

未納の方が病院にかかる場合の対応は

問

(八島博正議員)

国民健康保険税を納めていない人が病院にかかる際はどのような対応をしているか。

課長

滞納がある場合は短期保険証の発行を含めて対応をして

水道事業会計

今後の水道事業の見通しは

問

(渡辺勝弘議員)

損益計算書において、単年度で初めての純損失となっているが、理由と今後の見通しについて伺う。

課長

平成29年度に簡易水道との統合があり、補助を活用した本管工事を行ってきたが、宅内の給水管については、営業費用として支出したことで、一時的に費用が増大した。今後は拡張というよりも、維持管理に主軸を置いた事業になると考えており、そのための積み立てを行っている。今後も補填財源を活用して修繕などをやりたい。